

授業科目名	担当教員名	授業実施日	※
暗黒の宇宙に迫る	杉山直	4月20日(火)	
学生番号	学部・学科	学年	氏名
03100065-4	法	1年	鈴木一将

私が杉山先生の講義で印象に残った点は以下の2点に集約される。第1に、宇宙物理学においては必ずしも目に見える(観測できる)ものが全てではないという点である。文系である私にとって、サイエンスとは「ひたすら実験・観察をして、そこから自然現象の仕組みを解明するプロセス」であるというステレオタイプを抱いていた。しかしこの講義によて、ダークマター、ダークエネルギー等観測が不可能な存在を「ある」ものとして認めなければ宇宙の構造は決して理解出来ないことを学んだ。「ダークマター等」といって、その実体が完全には解明されていない構成要素が存在しても、宇宙全体の構造を理解することが出来る。」— この概念は実に刺激的なものであった。

第2にはサイエンスにおける理論の構築過程である。この過程は、具体的にはビッグバン理論から見てとることが出来た。ロシアのガモフが提唱したビッグバン理論は、私からすればにはわかりは信じ難い。むしろ私にとっては「宇宙は定常状態にある」と思いこむ方がずっと容易である。しかしサイエンスにおいてはどの仮説も少なくとも可能性の存在する限り、荒唐無稽なものでは有得ない。むしろ重点はそれが何を説明し、何が問題になるのかという問いを提起していくことにある。講義中に出てきた、科学者達の発想の豊かさ、サイエンスに対

授業科目名	担当教員名	授業実施日	※
暗黒の宇宙に迫る	杉山直	4月20日(火)	
学生番号	学部・学科	学年	氏名
031100065-4	法	1年	鈴木一将

する真摯な姿勢にはただただ脱帽するばかりである。時に不毛な感情論争に終始しがちな「権威」が重視されがちな日本の社会科学界との大きな差を痛感した。

講義を通して気えたのは、サイエンスにおける発想は社会科学にとっても有意義であるということである。上に挙げたものの他にもエントロピーの概念等はその最もたる例であろう。宇宙論だけでなくサイエンスの発想をもかい見せていただいた杉山先生に感謝したい。